

「イエス様の厳しい戒めとその真意」
マタイの福音書 5章17節～20節

はじめに

イエス様の教えの中でも、マタイの福音書5章から7章に記されている「山の上の説教」は、特に有名です。今朝は、この中から、この厳しすぎると思われる戒めの真意はどこにあるか考えて見ましょう。

1 イエス様が人々に求めた厳しい戒め。

(1) 人に腹を立てる者は、さばきを受ける (5:22)

このことばは、「殺してはならない」という十戒の中の第6戒を引用して言われました。

イエス様は、「殺してはならない」で、神様が何を求めておいでになるかを示しました。

(2) 欲情をいだいて女を見る者は、心の中で姦淫を犯している (28)。

この戒めは、十戒の第7戒「姦淫してはならない」です。ここでもイエス様は、殺すことの場合と同じように、人の心に中の罪にまで言及なさいました。

(3) 不貞以外の理由で妻を離別する者は、妻に姦淫を犯させるのです (32)。

離婚が安易に行われていることに対して、厳しく戒められました。離婚は絶対に駄目というわけではありませんが、不貞以外には認められないと言われたのです。

日本の離婚は34%で、ドイツやフランスとほぼ同じ位です。見合い結婚の方が恋愛結婚よりも離婚率が低く、「出来ちゃった結婚」は離婚率が高いと言われます。最近は、中高年の離婚が高くなる傾向があるようです。

(4) 右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい (39)。

このことばは、「目には目で、歯には歯で」という復讐のことばの引用で言われました。

復讐するのではなく、求める者にはあげなさいという教えです。

(5) 自分の敵を愛し、迫害する者のために祈れ (44)。

自分を愛してくれる人を愛するだけでなく、敵をも愛しなさい。

(6) 人に見せるために、善行をしたり、祈ったりするな (6:1-8)

イエス様は、善行や祈りという、良い行いの中にも、偽善があることを鋭く指摘なさいました。

2 戒めの目的は何か。

(1) 神が私たちに本当に求めておられることを示すため。

イエス様は、律法の示す深い真の神様のみこころを私たちにお示しになりました。ですから、イエス様によって罪から救われ、新しい人になった私たちは、ただ律法に従うのではなく、そこに示された真の神様のみこころに従って生きていきましょう。

(2) 人を罪とその結果から守るため。

罪がそのまま野放しになっていたら、人間は生きていくことが出来ず、滅んでしまうでしょう。ですから、戒めや法律が必要です。

適用：殺してはならない。姦淫してはならないという戒めがあるから、人はそれを犯さないようになります。

この辺の道路は制限速度 30 キロ、50 キロと決めるから、人は事故から免れます。50 キロを超えて見つければ、罰を受けますが、法律は罰するために作られたのではなく、人を守るためです。

(3) 人に罪を教えるため (ガラヤ 3:24)

戒めや法律は、私たちを罪から守りますが、私たちは戒めを完全には守れません。

戒めは、私たちに罪を自覚させるのです。

イエス様の時代は、ユダヤ人には神の戒めが与えられていて、人々はそれを守っていました。そして、自分が罪人であることの自覚が薄くなっていました。そこで、イエス様は、表面的に戒めを守る人々に、厳しい戒めを語ることにより、罪を自覚させたのです。

罪を自覚すれば、救い主を求めるようになるのです。

3. イエス様の救い。

(1) イエス様は、罪人を救うために来られた。

私たちは、イエス様の厳しい戒めを知ると、自分にはそれを守れない

ことを知り、それを破っているのです。神様の前では罪人であることを悟ります。では、どうすればよいのでしょうか。イエス様は、その罪人である私たちを救うために、この世においでになったのです。イエス様は、こう言われました。「医者が必要とするのは、丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです」(マルコ 2:17)。そしてイエス様は、取税人や罪人(マタイ 9:13)、姦淫の罪を犯した女(ヨハネ 8:11)などをお救いになりました。

(2) イエス様は、人々の罪を負われた。

イエス様は、十字架で、私たちの罪を負われて死んだのです。神は、私たちの罪を、神の御子であるイエス様に負わせ、私たちの代わりにイエス様を罰して私たちを赦そうとされました。

(3) イエス様を信じる者は、罪を赦され、神の子として受け入れられる。

神様は、御子に私たちの罪を負わせて罰したので、私たちを罪のない者として認め、受け入れてくださるのです。イエス様は死んで三日目に復活し、いま、天にあって私たちの救い主となり、私たちを救ってくださるのです。

(4) イエス様を信じる者は、神様からのいのちを与えられ、神のみこころを行うことが出来る者となる。

あるとき、イエス様の所に、金持ちの青年が来て、「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたら良いでしょうか」と聞きました。イエス様は「戒めを守りなさい」とお答えになりました。するとその青年は、「そのようなことはみな守っています。何かまだ欠けているでしょうか」と言いました。するとイエス様は「もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい」と言われました。ところが、青年はこのことばを聞くと、悲しんで去って行きました。この人は多くの財産を持っていたからです。

するとイエス様は弟子たちに、「金持ちが天の御国に入るのはむずかしいことです。金持ちが天の御国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい」とおっしゃいました。これを聞くと弟子たちは、たいへん驚いて「それでは、だれが救われることができるのでしょうか」とイエス様に聞きました。イエス様は、「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます」とお答えになりました。

イエス様の厳しい教えを守ることは、人間にできません。しかし、神

様には出来るのです。ですから、神様を信じる者には出来るということです。

結論

イエス様があのよう厳しい教えをなさったのは、私たちが罪から守るためであると同時に、私たちに罪を自覚させ、救い主へと導くためでした。そして、主に救われて新しくなった私たちは、神様が求めておられるみこころに従って生活すべきであること、そしてそれが出来る者とされているのです。

招きのことば

イエス様は、私たちの罪を赦すために、十字架ににおかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」
(ヨハネ第一の4の10)

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」 (黙示録3の20)

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」
(使徒の働き16の31)

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私はあなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。しかし、イエス様は、私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださると言われました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださり、私を新しく生まれさせてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を守り、導いてください。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。